

丸亀城本丸の排水整備（舗装）について

1. 整備の位置づけ・目的

(1) 背景

平成 30 年に発生した三の丸南西部石垣の大規模崩落は、石垣の経年劣化に加え、豪雨時において雨水が地中へ浸透し、排水機能が十分に発揮されなかったことが、主な要因の一つと考えられている。この事象を踏まえると、史跡丸亀城跡全体における雨水排水対策は、今後の石垣保全を進めるうえで極めて重要な課題に位置付けられる。

(2) 目的

本整備は、雨水の地中浸透を抑制することにより、表土流出や水たまりの発生を防止し、遺構の保存および来訪者の安全を確保することを主目的とするものである。あわせて、その整備方法については、天守を中心とする本丸空間が有する史跡としての本質的価値および歴史空間の保持に十分配慮しつつ、都市公園としての利用実態に対応した歩行性ならびに管理車両の走行性を確保し、保存と利用の適切な両立を図ることを目的とする。

2. 対象空間の価値と本丸の現状

(1) 対象空間の性格・史跡としての価値

史跡丸亀城跡の本質的価値は、保存活用計画において、①備讃瀬戸並びに讃岐国の政治拠点、②優れた視覚性と高い防御性を持った近世城郭の縄張りの典型、③高石垣が重層する立体的な城郭景観とその技術、④近世城郭を体感できる歴史空間の四点に整理している。

本丸は、近世における政治的中枢の象徴である天守が所在する曲輪であり、亀山の地形を活かして重層的に築かれた高石垣群ならびに城郭縄張りの最上位に位置している。

また、本丸から得られる眺望が示すとおり、周囲からの視覚的認識性に優れ、天守・櫓台跡石垣といった現存遺構に加え、城地全体を俯瞰できる眺望環境を含めて、近世城郭の構造と機能を総合的に体感できる、史跡丸亀城跡の本質的価値を象徴的に体現する空間として位置づけられる。

(2) 地形・排水の現状【別紙 1 参照】

- ・天守より東側は、塩櫓跡と渡り櫓跡があり、地形的には本丸広場より一段高くなっている。
- ・天守より西南側の櫓跡（姫櫓跡、多門櫓跡、宗門櫓跡）の内側は、主に真砂土で造成された広場（以下、「本丸広場」という）となっており、一部、雨風の影響等による土砂流出が著しく亀山の岩盤が露出している箇所や雨天時には不陸による水たまりが発生する箇所がある。
- ・塩櫓跡を除く 3 つの櫓跡（姫櫓跡、多門櫓跡、宗門櫓跡）では、観光客の踏み荒らしや雨風の影響による土砂流出が見られる。
- ・本丸広場の四方には発掘調査で確認された排水路を模した排水路を設置しており、これを利用した雨水排水を行うこととなっているが、地形の形状により上手く雨水を導けていない。

(3) 利用状況

- ・ 天守は一般公開しており、年間約 11 万人の入場者がある。
- ・ 本丸広場は、大勢の観光客をはじめ、近隣の小学校や幼稚園などの校外学習の場としても利用されている。
- ・ 四隅に位置する櫓跡は、眺望が素晴らしい為、展望台としてよく利用されている。

3. 整備方針

- ・ 石垣保全を最優先とし、雨水の地中浸透をできるだけ抑制する
- ・ 表土流出を防ぎ、遺構面の保護を図る
- ・ 水たまりの発生を抑制し、来訪者の安全性・快適性を確保する
- ・ 歩行性および管理車両の走行性を確保する
- ・ 現状の土の風合いをできる限り活かし、歴史空間への影響を最小限とする
- ・ 石油由来材料であるアスファルトは使用しない
- ・ 掘削等の現状変更は必要最小限とし、可逆性を重視した構成とする

4. 整備内容（整備案）

【別紙 2 参照】

5. 検討したが採用しない手法とその理由

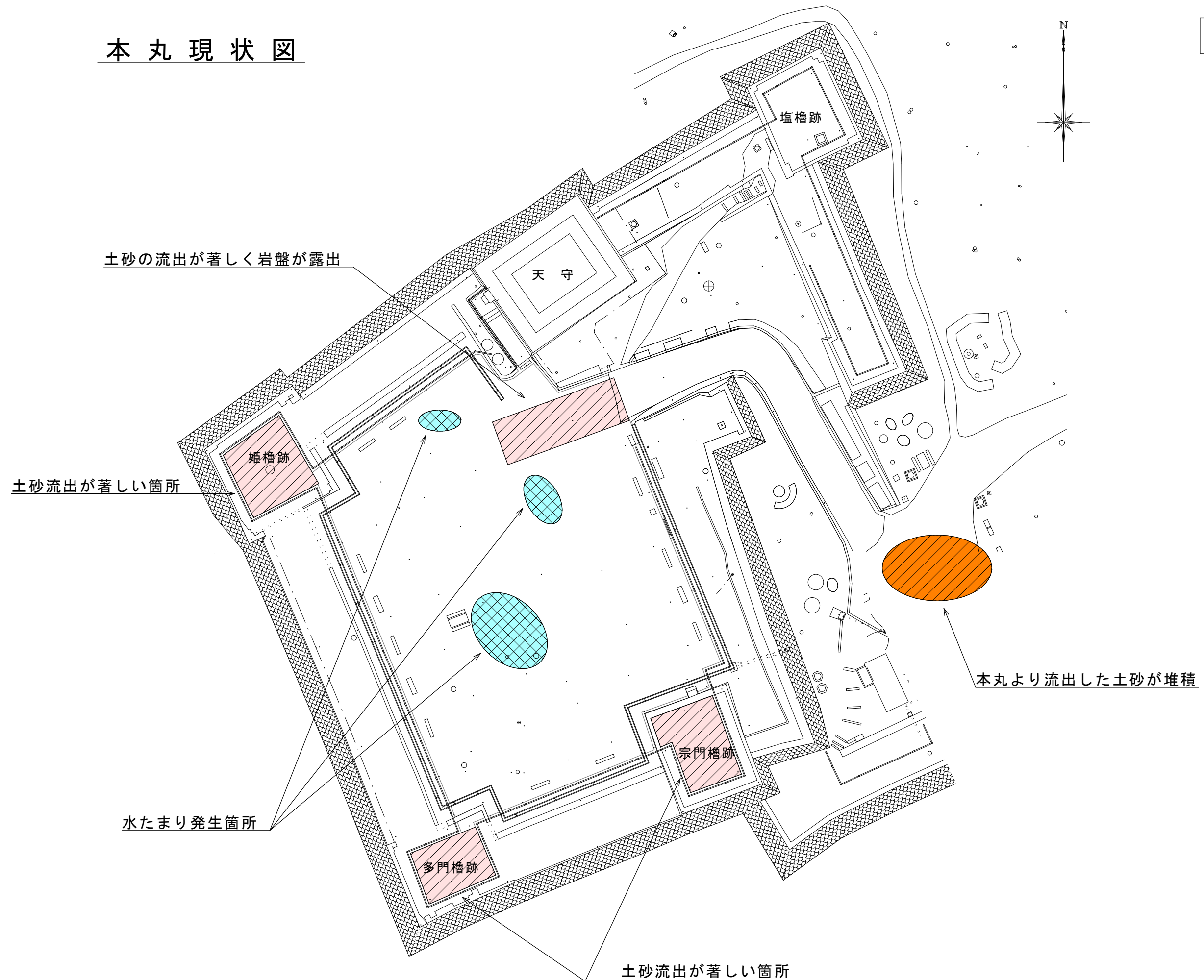
土系真砂土舗装材（表層）の下面に粘土などの不透水槽を設けない理由（表面排水を主としている理由）

- ・ 流末の排水処理が難しい
→ 表層内に保水される雨水処理には流末に排水施設（排水路、暗渠排水など）が必要になるが、現状の排水路では対応が難しい
- ・ 粘土の耐荷重における懸念
→ 粘土は透水係数が低く、止水性には優れているが、荷重による変形が生じやすく、表層破壊を招く恐れがある
- ・ 粘土の施工性における懸念
→ 粘土は粘性が高いため、広く均一に敷きならすなどの施工が難しい

以上

本丸現状図

別紙 1

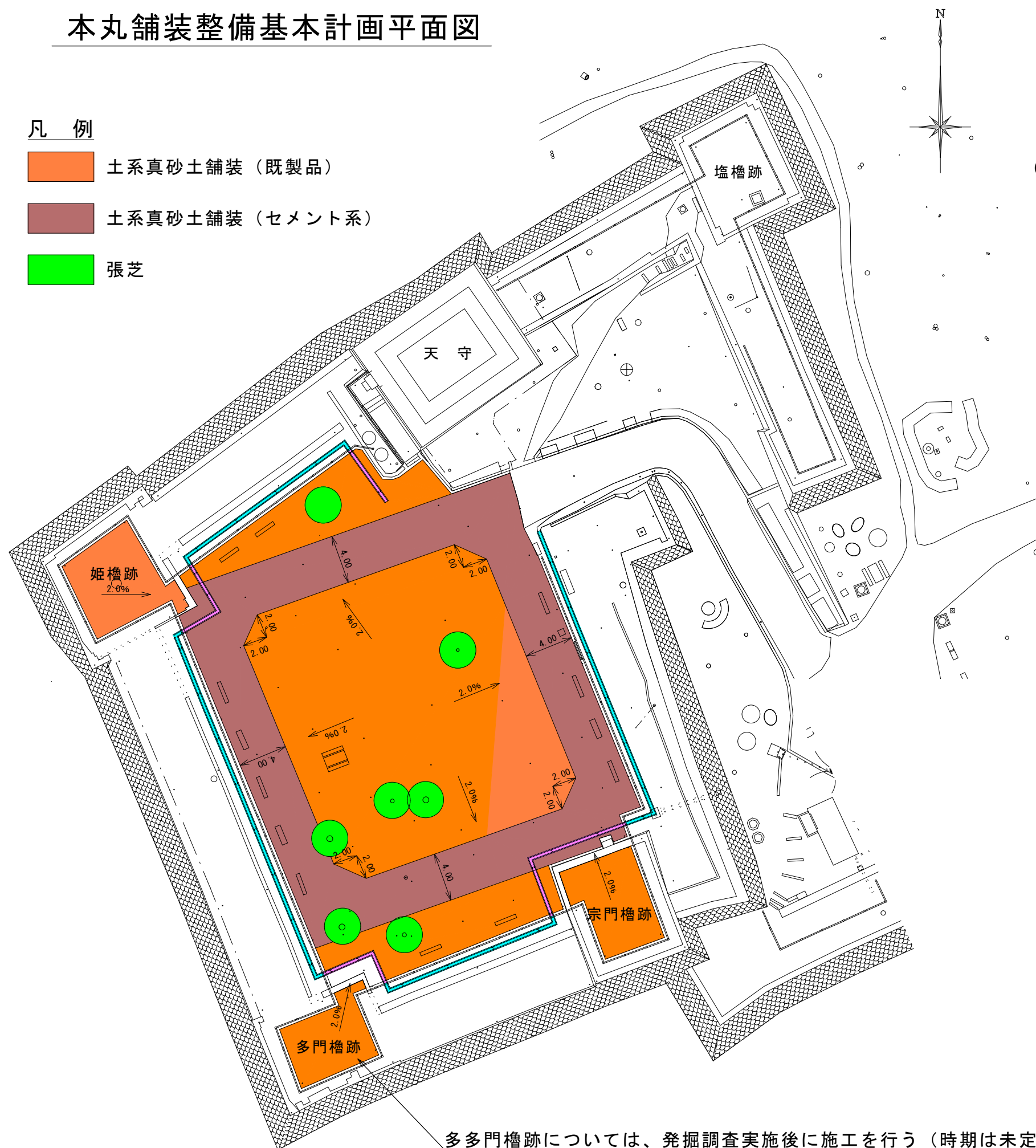


本丸舗装整備基本計画平面図

別 紙 2

凡 例

- 土系真砂土舗装（既製品）
- 土系真砂土舗装（セメント系）
- 張芝



多門櫓跡については、発掘調査実施後に施工を行う（時期は未定）

○本丸舗装整備の仕様

◇管理道路（園路）

- 土系真砂土舗装（セメント系）

- ・地盤耐力：60KN/m2程度（2tダンプトラック程度の走行を想定）
※これを満足するセメント量を配合設計で求める
- ・幅 員：4mを基本
- ・表面排水勾配：2%を確保
※土系舗装はセメント混合量にもよるが完全な止水は難しい為、排水勾配を確保することでこれを補うものとする

・舗装構成

		100 表層（土系真砂土舗装）
		150 路盤（再生クラッシャーラン）

◇本丸広場および櫓跡

- 土系真砂土舗装（既製品）

※「ガンコマサ」などの既製品を使用することでより土の風合いを意識したものにする

- ・表面排水勾配：2%を確保
※土系舗装はセメント混合量にもよるが完全な止水は難しい為、排水勾配を確保することでこれを補うものとする

・舗装構成

		50 表層（土系真砂土舗装 既製品）
		100 路盤（再生クラッシャーラン）

◇樹木周り

- 張芝（高麗芝）

- ・大きさ：直径3m程度のツリーサークルとし、張芝とする